総統いまだ死せず

総統いまだ死せず

福田恆存

新潮社版

印刷昭和四十五年六月二十五日
發行昭和四十五年六月三十日／價五八〇圓
發行者佐藤亮一／發行所株式會社新潮社
東京都新宿區矢來町七一／郵便番號一六二
電話東京(03)二六〇-一一一一振替東京八〇八

総統いまだ死せず

福田恆存著

印刷・塚田印刷／製本・新宿加藤製本
亂丁、落丁本はお取替へいたします
©1970, Tsuneari Fukuda, Printed in Japan

総統いまだ死せず

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook

一

アドルフ・ボルマンと藤井夢子とが一緒に暮してゐるアパート。アコーディオン・ドアによつて奥と手前とが仕切られてゐるものの、要するに二十坪足らずの一つ部屋。朝。

自動車の警笛等、時〻外部の騒音が聞える。

電話が鳴る。アコーディオン・ドアの隙間から夢子が現れ、受話器を取る。年は四十過ぎ。

夢子　はあ……？　私は藤井夢子、え、ボルマン……？　さあ、どうですか……、その前にお名前をどうぞ——それが禮儀といふものではございません、相手

の名を確める前に御自分のお名前をおつしやるのが？　いいえ、どう致しまして、私の方こそづけづけ申上げて……、は？　もう一度――ミヅマキさん、水を撒くミヅマキでございますね、撒水車の……、如露の……、違ひまして？　え？　あ、解りました、マキは渦卷の卷――水の方はやつぱり撒水車の水で宜しうございますね？　いいえ、そんな……、いつまでも撒水車にこだはる氣は毛頭ございませんけれど、ただ……、とんでもない、名前などどうでもいいといふ譯には參りません、アドルフは蟲の好かない人のブラック・リストと何となく氣の合ふ人のホワイト・リストと、それからどちらとも言へない中間の人のグレイ・リストと、三種類のカードを作つてをりまして、それが發音ばかりでなく、文字遣ひまで細かく類別してあるものですから、一目瞭然……、一寸お待ち下さいまし、カードを調べさせて頂きます……、（勿論、そんなものは無い）アカサタナハマと……、水卷さんでいらつしや

いましたね……、マミムメ……、あら、御免遊ばせ、通り過ぎてしまひました……、マミ・ミ・ミ……、ミツ・ミツ・ミツ、あ、ございました、ございました……、ミツマキと……、ああら、お氣の毒に黒でございますよ、黒となると、どうしてもお取次する譯には——失禮、このミツマキは撒水車の方でございました、あなた樣のは渦卷の方でございましたね——とんでもない、私、今、渦卷と申上げたのでして、左卷などと、そんな失禮な事を申上げた覺えはございません——あ、ございました、ございました、渦卷の水卷さんは黒ではございません、といつて白でもございません、そのどちらでもない灰色の方に這入つてをります、殘念ながら、あしたもう一度お電話下さいませんでせうか、それまでにとくと相談の上——あ、お待ち下さいまし、同じ渦卷の水卷さんでも二人いらつしやるかも知れません、まことに失禮ですが、お名前の方を……、は、ヒコイチさん？——何もさう大きな聲をお出しにな

らなくても……、まあ、お怒りになつたのでございますか、水卷彦一、折角良いお名前をお持ちでいらつしやいますのに——ええと、水卷彦一さん、彦一さんと……、あら、どう致しませう、ございませんわ、黑にも白にも灰色の方にも……、さうなると新しく登錄させて頂かなくては——失禮でございますが、生年月日をどうぞ——出來ます事なら御本籍を——奧樣のお名前は？　お幾つでいらつしやいます？　お幾人？——いいえ、奧樣の數ではございません、お子樣は何人おいでか……、まあ餓鬼だなどと……、俗に子寶と申すではございませんか——で、皆樣お揃ひでまだ生きておいでで？　それはおめでたうございます——出來は、いえ、學校の御成績、落第は一度も？　まあまあおめでたうございます、お仕合はせな御家庭で……、（相手が電話を切つたらしく、こちらも受話器を荒々しく置いて）ふん、怒つちまひやがつた、それにしても鈍感だよ、腹が立つまで十分も掛るなんて、全く世話を燒かせ

やがる、（レコードを掛けながら）アドルフ、アドルフ、もう起きなさいよ、早くしないとお店に間に合はないから――さ、目醒し。

レコードが音高く鳴り始める、シャンソン。

夢子、遲い朝食の仕度に掛る。間も無く、戸口にブザーの音。夢子、プレイヤーの音を小さく絞り、覗き穴から外を窺ひ、安心した樣にドアを開ける。新聞屋。

新聞屋　中央新聞です、今月分、お願ひします――濟みませんが、今月から……。

夢子　解つてゐるわよ、値上げでせう？　氣にしなくてもいいの、當り前よ、新聞代の値上げ位は。

新聞屋　これは驚きましたね、奥さんだけですよ、さう言つて下さるのは――何處へ行つても厭味ばかり言はれましてね、國鐵や風呂屋の値上げに文句を言ふ新聞が自分の所の値上げには頬被り、まるで内閣訓令告示みたいだつて怒られるんで、こつちはぺこぺこ……。

夢子　そんな月並な厭味を言つて怒つてゐるのは本當に怒つてゐない證據よ、私くらゐ腹が立つてしまへば、決して文句など言ひはしない、「當り前よ、新聞代の値上げ位は」つて言ふわよ。

新聞屋　へ？

夢子　さ、これでお釣り頂戴。

釣りを受取つたところへ、水卷が這入りこんで來る。新聞屋、退場。

夢子　どなた？

水卷　渦卷の水卷です、神出鬼沒でせう？

夢子　階下から電話したのね——何の御用？

水卷　御主人に、いや、ずばりと申上げませう、アドルフ・ヒトラー氏にお目に懸りたいのです。

夢子　（わざとらしい素頓興な笑聲）　はははは、やつぱり左卷だつたのね、あなた

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook

は……、フューラーに……、総統に會ひたいだなんて……、はははは、総統は一九四五年の四月三十日にエヴァ・ブラウンと一緒に自殺してしまつたではないの、ベルリンの総統官邸の地下防空壕で……。

水卷　そして中庭に運び出され、ガソリンを注ぎ掛けられて火葬に附された。

夢子　そしてその遺骨を見た者は誰もゐない、ロシア軍が占領した時にも庭には何も殘つてゐなかつた。

水卷　そこだ、ヒトラーの遺骸を見た者は誰もゐない、といふ事は、総統はまだ生きてゐるかも知れないといふ事です。

夢子　（ほつとした明るい笑聲）あははは、さうなの、あははは、あなたは私のアドルフが総統だと言ひたいの、あの時、敵は愚か、身方の目までまんまと晦（くらま）して逃げのびたアドルフ・ヒトラーだと？　（奥へ向つて）アドルフ、アドルフ、出ていらつしやいよ、とても面白いお客様、あなたがヒトラーなので

すつて――フォルナーメが同じアドルフだからつて、隨分出世させて頂いたものね。

水卷　待つて下さい、奥さん――さう、お呼びしても宜しいのでせうね？

夢子　さあ、良いけれど、餘り慣れてゐないわ――夢子と呼んで頂戴。

水卷　畏りました、ところで夢子さん、幾ら私が左卷でも、ヒトラーがまだ生きてゐるとは思つてをりません――正直の話、數年前まではさういふ事も考へた、いや、さうあつて貰ひたいと心から望んだものです、なぜなら総統アドルフ・ヒトラーは私の少年時代から終始一貫、少しも變る事無き英雄であり偶像であつたからです――これでお解りでせう、私は左卷ではなく、その反對の右卷だといふ事が？

夢子　それ、洒落の積り？

水卷　まあね。

夢子　それで、総統が生きてゐて貰ひたいといふ、そのあなたの夢は、いつどうして消えてしまつたの？

水卷　一九五六年――私の夢を殺したのは『ヒトラー最後の日』の著者トレヴァー・ローパー氏です。

夢子　ああ、トレヴァー・ローパー！

水卷　（勢ひこんで）　やつぱり御存じでしたね。

夢子　（少々慌てて）　いいえ。

水卷　（じつと相手の顔を見ながら）　御存じの通り、ローパーはかう推測しました――死體を戸外で火葬に附した場合、後に何の痕跡も殘らぬといふ事はあり得ない、超人であり天才であつた総統といへどもこの物理的原則を免れる譯には行きません――然るに、ロシア軍が総統官邸を占據した時、庭には何も無かつた、一つの死體も――この原則と事實との矛盾を前にして、ローパー氏

の民主主義的執念はヒトラー氏の獨裁主義的執念に劣らず、いやが上にも燃え上つた――いいですか、當時ローパー氏はかう推測したのです、防空壕内で自殺した総統とエヴァ・ブラウンの死體は親衛隊員達の手によつて中庭に運び出され、最後まで総統と運命を共にしたゲッベルス夫妻その他數人の親しい人達に見守られながら、副官のギュンシェの手によつてガソリンを注ぎ掛けられ……。

夢子　もう澤山、澤山、澤山、聽き飽きたわ、同じ事を、何度も何度も――オーストリアでもスイスでもアメリカでも、戰爭が終つて十年、かはいさうにあの人は何處へ行つても、周圍の人達の恐しさうな、うさんくささうな目附に惱まされ通して來たのだわ……、そして日本へ渡つて來て漸くここ數年、誰からも疑はれずにひつそり暮して來たといふのに……。

水卷　あなた方にとつては聞き飽きた話かも知れないが、私があなた方に話すの

は初めてです――ローパー氏は一九四五年、戰爭が終ると直ぐ徹底的調査に乘り出した、そしてかう結論を下したのです、といふのは、燒き盡された総統の遺骨は一つの箱に收められて、ヒトラー・ユーゲントの隊長アルトゥール・アクスマンに手渡され、アクスマンがそれを何處かに葬つた、それが何處かは、勿論、永遠の謎です。

夢子　それであなたの夢も永遠に消え去つたといふ譯？　あははは、お氣の毒に。

水卷　違ひます、早合點しないで下さい、誰がそんな話を信じるものですか、次の時代を擔(にな)つて立つヒトラー・ユーゲントの隊長が懇(ねんご)ろに遺骨を埋葬した、で、死體が中庭から消え失せた、そんな作り話で私の夢が消え失せるものですか、かはいい子供が神隱しにあつたなどといふお伽話(とぎばなし)が信じられない以上はね――それに露天で燒かれた死體が骨になるなどと、そんな馬鹿な！

夢子　だつて、さつきあなたはローバー氏の本が……。

水卷　私の夢を完全に叩き潰したのは、さう、やはり同じローバーですよ、同じ『ヒトラー最後の日』ですよ、戰後十年經つて出たその一九五六年版の後書で、奴はかう言つてゐる、今度のは單なる推測ではない、ロシア軍の調査記錄といふ證據物件がある、それによると、總統の死體にガソリンを注いだ例の副官ギュンシェがすべてを告白したらしい、お蔭で死體を埋葬したのは護衛士官のメンゲルスハウゼンといふ男で場所は官邸の中庭だといふ事が判り、ロシアの調査官は捕虜のメンゲルスハウゼンを責めに責めぬいた揚句、やつと白狀させ、中庭に連行して埋葬箇所を確めた、ところが、そこは既に掘り起されて空になつてをり、死體は何處かに持ち去られてゐたのです——解りますか、誰がそれを持ち去つたか？　ヒトラー・ユーゲントの隊長でもなければ、その他の如何なるドイツ人でもない、ましてや神樣などではありませ

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook